朗読劇

線量計が鳴る

―元・原発技師のモノローグ―

脚本・出演

中村敦夫

ひとり語り

原発の町で生まれ育ち、
原発で働き、そして
原発ですべてを失った。
これは、
何かの陰謀でねえべか？

2018年11月28日（水）14:00（開場　13:30）

スペースオルタ（新横浜駅より徒歩６分　オルタナティブ生活館地下１階）

チケット代　2,000 円（全自由席　当日券はありません）

■主催

ＷＥ21 ジャパングループの 11 地域の NPO 法人
いずみ・旭・せや・ほどがや・とつか・なか
みなみ・いそご・港南・さかえ・よこすか

■後援　NPO 法人ＷＥ21 ジャパン、スペースオルタ

■チケットのお求め・問い合わせ

NPO 法人ＷＥ21 ジャパン
TEL:045-264-9390　Email:morita@we21japan.org

東京電力福島第一原子力発電所の事故から7年あまり。今もなお4万6000人もの人々が避難生活を余儀なくされています。放射能で汚染された大量の土は最終的な処分場も決まらないまま被災各地に積み上げられ、汚染水は海に垂れ流され続けています。しかしその一方、原発事故への人々の関心は徐々に薄まってきているのではないでしょうか。

中村敦夫さんが演じる元原発作業員の老人は、事故がなぜ起きたのか、その背景と本質を明らかにしていきます。「右向けといわれれば右向き、左といわれれば左、おれはもうそういう日本人にはなりたくねえんだ」。中村さんが少年時代を過ごしたいわきの訛りで語る原発への怒りが、私たちの胸に深く突き刺さります。

ニュースの追跡

原発の町で生まれ育ち、原発で働き、そして原発ですべてを失った

テレビドラマ「木枯し紋次郎」で知られる俳優で、元参院議員の中村敦夫さん(78)が、東京電力福島第一原発事故をテーマにした朗読劇「線量計が鳴る」を制作、上演している。「ライフワークとして演じ続けたい」と意気込む。（白名正和）

「ゼロ」へ 言葉響かせる

俳優・中村敦夫さん 朗読劇「線量計が鳴る」上演

朗読劇「線量計が鳴る」で元原発技術者を演じる中村敦夫さん＝東京都武蔵野市で

劇の主人公は、原発が立地する福島県双葉町で生まれ育った元原発配管技師の男性だ。線量計が発する警告音とともに、男性役の中村さんが「原発の町で生まれ育ち、原発で働き、そして原発ですべてを失った」とつぶやき、二時間の劇が始まる。

中村さんは福島弁で、男性の人生を語る。設備の点検結果をごまかし続ける会社の体質に我慢がならなくなり、不正を内部告発してクビになる。そして二〇一一年三月十一日。「取り返しのつかねえ原発事故が起きちまった」

劇の後半では、原発が日本に導入された経緯や事故の背景を指摘する。政治家や官僚、御用学者ら原発利権に群がる勢力を「六角マフィア」と批判。「長いものには巻かれろつう諺があっけんど、あれは間違いだべよ。一度巻かれたらどんどんまかれ、最後には首に巻かれて絞め殺される」と再稼働に向けた動きをけん制する。

中村さんは俳優として活躍する一方、一九九八年に参院選で初当選し、二〇〇四年まで環境問題に力を注いできた。七十歳を過ぎゆっくりしようと考えていた時、原発事故が起きた。

東京都生まれだが戦時中に福島県いわき市へ疎開し、中学校卒業まで過ごした。福島はいわば第二の故郷だ。「人生で東京以外に、こんなに長くいた場所はほかにない。素晴らしい場所を事故で失ったことに怒りがわいた」

表現者として原発事故に対して何ができるか悩んだ。「大勢でやるオペラも考えたが、非現実的。演劇の原点でもっとも単純化された朗読劇ならば、上演しやすい」と考えた。

三年かけて自ら台本を書いた。主人公の心情だけでなく、スクリーンで図やグラフを見せながら原発の仕組みなどを説明する。「見てくれを楽しむのではなく、何が問題なのかを客の知性に刻印しなきゃいけない。専門的な知識も、ひと言ひと言、客に読んでもらいたい」との思いからだ。

一六年十一月、福島県喜多方市で初めて披露された。以後、これまでに都内や愛知県など全国で計三十回、上演してきた。どの回も盛況で、当日客が入れないほどという。「やはり原発への危機意識は高い」と手応えを感じている。

中村さんは「政治で原発をなくさないといけない」とも強調する。その政治では、現政権のもとで次々と原発が再稼働される一方、立憲民主党は「全ての原発の運転を速やかに停止し廃止する」とする原発ゼロ基本法案をまとめた。

「原発ゼロと言い切ったことは評価できる。いま原発が再稼働されるのは、法律で認められているから。原発ゼロという思いの人たちが結集し、法律を変えなくてはならない」

劇は今後、横浜市や名古屋市で上演する予定だ。主催するのは、各地の市民でつくる実行委員会。「知らない人から声がかかるのはうれしい。今後もできる限り上演し、原発をなくすことを訴えていく」と力を込めた。

上演の問い合わせはクロスポイント＝電03（3586）5020＝へ。

東京新聞　2018.5.4

中村敦夫さん プロフィール

1940年、東京生まれ。幼少期に福島県に疎開。小中学校を過ごし、東京に戻って都立新宿高校を卒業、東京外国語大学に入学。演劇に興味を持ち大学を中退、劇団俳優座に入る。1965年ハワイ大学に留学、帰国後は劇団を退団してＴＶ界へ進出した。1972 年、主演した「木枯し紋次郎」が空前のブームになり、その後数多くのドラマに主演、脚本や演出でも活動する。1984 年にはＴＶ情報番組「地球発 22 時」のキャスターに起用され、1998 年、参議院東京選挙区から立候補して当選。2000 年、「さきがけ」代表に就任。2002 年には党名を「みどりの会議」に変え、日本最初の環境政党を作ろうと全国の組織化に奔走。2004 年、「みどりのマニフェスト」を掲げ、10 人の候補者を擁立して参議院比例代表で闘ったが敗退。政界引退を表明する。2007年から３年間、同志社大大学院で講師を勤め、環境社会学を講義。現在は日本ペンクラブ理事、環境委員を務めている。2012 年には日本ペンクラブのチェルノブイリ視察団に参加した。小説『チェンマイの首』、講義録『簡素なる国』など、著書多数。

WE21 ジャパンは、リユース・リサイクルショップ「WE ショップ」を拠点に資源循環型の社会づくり、世界の人びととの民際協力、世界的な貧困や環境問題を学ぶ場づくりを行う NPO 法人です。38 の NPO が連携して、神奈川県全域で活動しています。今回の朗読劇「放射線が鳴る」上演は、11 の NPO 法人が主催しています。